

第5回倉敷市総合計画審議会 第5分科会議事録（要旨）

会 議 名 称		第5回 倉敷市総合計画審議会 第5分科会（SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政）
開 催 日 時		令和2年7月14日(火) 14:00～16:00
開 催 場 所		倉敷市役所 10階大会議室
出席者 ※敬称略	審議会 委 員	岡崎 真宏, 斎藤 武次郎, 新垣 敦子, 平井 俊光, 三村 聡
	市職員	企画経営室長, 総合計画策定研究班員, 事務局
関係者	関係者	委託事業者
傍聴者	傍聴者	1名
欠席者 ※敬称略	審議会 委 員	井上 峰一, 武則 啓子
会 議 次 第		1 開会 2 現況及び今後のスケジュール 3 総合計画について 4 その他 5 閉会

1. 開会

2. 現況及び今後のスケジュールについて (事務局説明)

委員	8月の分科会後にまとめた内容で10月頃にパブリックコメントや市民説明会を行うという話で、説明会はどのくらいの期間で行うのか。
市	まだ、計画内容の方向が定まってないので、その先の説明会についても詳細はまだ決まってないが、市民の方に地域で計画のご説明をと考えている。同時にパブリックコメントも行いたい。
分科会長	パブリックコメントや市民説明会でいいご意見をいただいたら、その時点でも修正は可能なのか。
市	修正可能だ。
分科会長	この総合計画の策定にあたって、市民の声はどこで反映できるのかという声もある。もちろん、我々審議会委員は市民の代表だが、市民にご理解いただかないといけないし、幅広く、直接、市民が声を届けられる場も必要だ。説明会の詳細が決まったら、また報告をお願いしたい。また、議会との関係についてはどうか。
委員	市議会のそれぞれの担当委員会へ説明していただく機会があると聞いている。
分科会長	市議会、また市民の皆さんからもしっかりとご意見をいただきたい。

3. 総合計画について

審議

分科会長	では、説明のあった第5分科会の部分についてのご意見は。様々な観点でお伺いしたい。
委員	108-109頁の5-4、公共施設で、市の施策の部分にも書いている安全確保が大切なのは異論をはさまないが、総量の適正化については、数ではなく設置場所について検討した方がよいのではないかと。現状で既に施設があれば、複合化、集約化という話はあっても、施設がない場所には、人口が増えても新たに設置はされない。たとえば茶屋町は人口が増えているけれど、図書館や児童館といった公共施設はないなど、配置の適正化を考えることも必要だ。大きなエリアでなく小さなエリアで小規模にたくさん作っていくという発想も必要ではないか。総量だけでなく配置場所も、人口減少を見据えた計画として考えてほしい。
分科会長	貴重なご意見をいただいた。人口が減少し、今後ますます税収や財政が厳しくなる中、エリアごとの公共施設の最適配置、集約なども含めて、市民にわかりやすいモデルを描くこと、裏付けのある財政計画なども必要で、未来を担う子どもたちにも響く計画にしたい。
市	ご意見のとおり、総量規制だけでなく適正配置の文言も必要だ。先日の第3分科会（都市基盤）で、施設を増やすことは難しいが、集

	<p>約して適正に配置しながら、そこにアクセスしやすい公共交通を整える点について話があった。他の分科会とも連携しながら市全体のまちづくりというところにつなげていければと思う。</p>
分科会長	<p>公共交通をどう活用するのか、市内の鉄道やバス路線など、実態として市民の納得を得るような形にしていって、先ほどのインフラ施設をどう最適配置するのかという問題になっていくと思う。</p> <p>また、この項には施設の運用面の記載もあるが、予算面だけの問題でなく、ソフト化政策も必要で、SDGsなどもどう織り込んでいくのかという議論も必要だ。</p> <p>ファシリティマネジメント、PFI、またRPAなど新語も含めて多くの言葉があり、難しくてわからない市民もいるのではないか。AIができたからスマホがあれば住民登録ができるとか、窓口事務はいらなくなるとか、総合計画は10年の計画で、KPIを含めてどの辺まで進めていくのかはこれからの議論だが、うったての部分で市民の方がわかる言葉で示す必要がある。計画冊子を読んで何をしようとしているか市民にわかってもらえるような、わかりやすい計画というなら用語集なども必要だと思う。</p>
委員	<p>施設については、各地区に分散ということではなく、必要などころに必要なものを作るということ。また、たとえば、小学校区内で分散していろいろな施設があるより、市民の利便性が高まるようにそのエリア内で集積するなども必要ではないか。</p>
分科会長	<p>コミュニティの最小単位は小学校区で、コミュニティ協議会などは小学校区単位になっている。</p>
委員	<p>108-109頁、5-4の公共施設の項で、複合化や集約化もふれているものの、既存施設の管理に目を向けすぎている印象を受ける。</p> <p>また、どこにどんな施設が必要なのかという情報の整理や、公設で作るだけでなく民間施設の間借りなども含めた拠点施設、さらに運営面における市民協働などの視点も出てくるのではないか。</p>
市	<p>この第5分科会は行財政改革も担当分野で、今の公共施設をすべて維持することは難しいのが前提だ。限られた財源の中で、適正配置や複合化などいろいろな方法があり、小学校での民間プール活用なども行っている。また、既存施設の長寿命化など安全に利用するための維持や、更新にあたってはPFIなど民間活力活用についても言及するなど、人口減少の中で市ができることは意識している。</p>
委員	<p>総合計画は10年なので、この先、人口の年齢構成や人口推移は変わってくると思うが、どのエリアにどういう施設やサービスがあって、今はどんな施設が足りないのか、マップ（地図）があるとよい。</p> <p>倉敷のまちづくりとしてどこに施設を集約していくのかという方針や、行政サービスへアクセスしやすいのはどこかなど、有益な情報を特に若い人たちは求めている、移住定住にもつながると思うので公開してほしい。</p>
分科会長	<p>全部を市がするのは難しいと思うが、これまでの官と民の対峙ではなく、市民協働での推進などでの施設の維持管理など、厳しい財政の中</p>

	でのやりくりが今まで以上に求められる時代だ。そういう中、さっきの説明で、課題としてNPOとの連携が不十分という話は具体的には。
市	市民企画提案事業の応募件数が伸び悩んでいる点と、団体間の相互連携や情報提供が不十分な点でまだまだ課題が多いと思っている。
市	先ほどのマップ（地図）の話で、地図情報とリンクしていくとわかりやすいという点については、この総合計画にぶら下がる個別計画の中でこういう意見があったということを反映していきたい。
分科会長	マッピング分析など活用できる技術は進んでいるので、子育て関係、高齢者関係など、分野ごとの施設等の市内のマップのレイヤーを重ねていって、さらに公共交通を組み合わせるなど、工夫すれば1枚のいいマップができないものか。総合計画はすべての部署が関わってくるので、まちづくりのビジョンとして、ソフトや既存のマップの活用などで、お金をかけなくても何かいいものができるのではないかと思う。
委員	NPO、民の力の活用と言われても、今、何の施設、どんな資源があって、足りないところは何かなど、情報開示があつてこそはじめてのことだと思う。一般的に市民協働と言うだけでなく、この部分をという具体的な分野の問いかけが必要では。また、公助は難しいが共助で何とかできないかという場合、公のプラットフォームが用意され、その情報は信頼できるという安心感があると違う。そのため、市民協働という観点から民間の活用も含めて、情報は開示してほしい。
分科会長	今後、どのようにデータを見ていくのか。オープンデータの活用なども言われており、市民のわかりやすさという点で、めざすところを数字で示していてもよいのでは。自治体行政でICTの活用も言われるが、たとえば、防災面は有事にすぐ情報が必要、という中で実装が進んでいる。また、G7倉敷教育大臣会合の開催時、WiFiを美観地区に整備して、それを倉敷市が流域の6市3町に広げていった件もそうだ。
委員	102頁の5-1では、地域の支え合い、安心して暮らしていける持続可能なということがとても大切だが、若い人は地域活動への参加が少なく、意見が反映されにくい、活動者の高齢化という現状もある。 地域とコミュニティについての大学生の論文では、コミュニティにふるさとのようなイメージをもっているとあった。高齢化で担い手が減る地域に、どれだけ若い人が関わっていけるのか、地域コミュニティの持続という視点を加えてはどうか。そして、若い人が、10年後の地域は自分が担っていくんだと信じられる計画になってほしいと思う。
市	若い世代が生まれた時から地域を意識して育つのは必要なことだと思う。分野が5-1なのか、教育関係の第1分野なのかは検討の余地があるが、若い人たちの地域への意識醸成を盛り込めるようにしたい。
委員	まちづくりの様々な施策を行っているが、限られた予算・資源で多様性のある市民に満足いただくという視点が大事だ。費用対効果、市民の満足度、幸福度など、膨大なデータの中でどこに民意を反映していくのか。 また112頁の5-6では、AI、RPA、キャッシュレスなどにふれているが、利便性をふまえて、どういった行政サービスをポジティブ

	<p>に行えるのか、また現状もふまえた非対面での対応方法なども議論していくべきでは。</p>
分科会長	<p>難しい言葉が多いので、RPA、KPIなど用語の説明についても付けた方がよいのではないかと。</p> <p>そして、費用対効果を求められる中で、ターゲティング、つまり計画の「華」をつくる、たとえば七次総でこれとこれだけはやる、みたいな大きな政策課題や民意の反映なども必要では。</p>
市	<p>ターゲティングの考えはわかるが、市として何を選択するか、色をつけるのは市長の公約といった部分ではないか。総合計画はもっと幅広く、市民のために福祉の充実など万人を対象とするものだと思う。</p>
分科会長	<p>確かに、総合計画は全体の広い計画であると理解する。</p>
委員	<p>総合計画は本来、市のグランドデザインだと思う。ネガティブな言い方になるが、たとえば112頁の5-6で、キャッシュレス化、オンライン化などを謳っているが、方針でなく方法(手段)ではあり、これらは10年後のビジョンでなく明日にでも取り組むべき一般施策ではないのかと思う。</p> <p>ここは基本方針を記載する欄(113頁)のはずであるから、どのような市を目指していくのか、方針を記載した方がよいのではないかと。</p>
委員	<p>具体的でわかりやすい言葉を散りばめることも必要だと思ったが。</p>
委員	<p>見せ方の問題で、同じ内容を指すとしても、たとえば「市内どこでも、財布をもたずに買い物ができる」などの言い方はどう思うか。</p>
分科会長	<p>つまり、市民が夢をもてる書き方をということだ。</p>
市	<p>いただいたご意見はもつともで、課題としたい。書きぶりとして、たとえば、現状と課題の部分は具体的な部分にふれる方向で、基本方針は10年を見据えたものに、など検討していきたい。</p>
委員	<p>考え方として、手続きの申請はオンラインで24時間可能になり、行政サービスの交付窓口は日中対応しているなど、市民生活がどう変わるという視点に代えてはどうか。</p>
委員	<p>方法論ではなく、向かっていく方向性が大事では。</p>
分科会長	<p>全体の書きぶりによるのでは。計画を見た市民が夢を持って、この10年でまちや生活がこう変わると感じられるような見せ方の問題だ。</p>
市	<p>書きぶりについてはまだまだなので、わかりやすさも含めてご指摘の点などを修正していきたい。</p>
分科会長	<p>倉敷のすごさは、高梁川流域をもっていて、歴史や文化があって、格調の高いまちということ、もう1つは水島コンビナートがあるため製造業が強く、地場産業がいきいきとしている点が挙げられる。</p> <p>倉敷市が持っている資源を、どうSDGsに落とし込んでいって、七次総では17のゴールのラベリングを行い、市民にこれがSDGsと分かっていただくこと、市の政策とリンクする部分で個性を出していくことが大切だ。どのようなまちをつくっていくのかだ。</p>
委員	<p>SDGsは、持続可能、活力ある暮らしをめざしているが、倉敷市の</p>

	<p>総合計画という中で、110頁、5-5で、市職員の健康という観点を含めた生産性向上をうたってはどうか。</p> <p>市内に住んでいても、市民活動、たとえばPTA活動などでも、市職員と一緒に活動することはあまりない。市内に暮らす仲間として一緒に活動したいし、仕事だけでなくそういう時間もとれないといけない。</p> <p>NPOなど市民団体の高齢化という説明があったが、若い人は地域で活動する時間がとれないのが現状。民間へのモデル、また、職員のスキルアップという点においても市役所がぜひ取り入れてほしい。そして市の施策というか計画の中に組み込んでほしい。</p>
分科会長	<p>倉敷市は市の規模が大きいので大変かもしれないが、自治体によっては、各地域に担当職員を張り付けているところもある。仕事かボランティアかについての考え方もさまざまではあるが。</p>
市	<p>職員の健康管理は生産性の向上で、市民に還元しているという点でとてもいい話だが、そのまま計画に盛り込んでいけるかどうかは難しく、担当部局などと相談する必要がある。</p>
分科会長	<p>県内の自治体職員の新任研修などでは同じ話をしている。</p> <p>基本計画について多くのご意見いただいたが、計画全体ではどうか。</p>
委員	<p>総合計画は、市民の皆さんが読むという視点で作ってほしい。</p>
分科会長	<p>小学生でなくても、子どもが読んでワクワクする親しめるものに。</p>
委員	<p>市民が主人公だと思うが、10年の計画でKPIなどどうなるのか。今の時代、1年後にはコロっと社会が変わっていることも想定され、計画で決めたからでなく、変化に柔軟に対応できる計画にしてほしい。</p>
委員	<p>各項目の頁にSDGsのアイコンを入れるとしているが、ただ入れるのではなく、SDGsの目標がこの目標の後ろにあって、目指す目標が具体的にイメージできるようにしてほしい。そしてそれを目標として自分も取り組みたいと思える計画を。若い人たちが、10年後にどれだけ実現できるのかなと期待でき、推進に関わりたい、行動したいと思える計画にしてほしい。</p>
分科会長	<p>子どもたち向けに、災害時どうやって逃げるかなど防災教育がはじまっている。また、水に浸かった古文書や仏像の修復などを子どもたちに見せることで、自分たちの地域である真備がこんなにすごいところなんだと、この災害をきっかけに知ってほしい。それも防災教育だしSDGsだと思う。SDGsのラベリングはテクニカルでなく、市の計画を実感できるような形でできればよい。</p>
委員	<p>七次総合計画の位置づけをずっと考えていたが、行政の計画なのか、市民のめざす計画なのか、主語はだれか、市民も主語になりうるのか。</p>
分科会長	<p>もちろん市民の計画だ。市民の方が読むもの…という認識で作っていただきたい。</p>
委員	<p>今更だが18頁のめざす将来像について、今後10年、市のめざすところのイメージがわからず、物足りない感じだ。だれがめざす将来像か。</p>
分科会長	<p>持続可能なSDGsの観点では。計画には政策性が必要で、職員は市</p>

	民代表のスペシャリストだと思う。
委員	先ほど、社会の動きは速いという話がでたが、K P Iの目標設定が、資料では、「5年後」「10年後」と表記されているが、期間が長すぎるので、設定年限を見直してはどうか。P D C Aサイクルをまわしてチェックしていくためにも見直しが必要では。
分科会長	確かに、時代がすごいスピードでまわり、変化している。真備の水害や現在のコロナ禍など予想もつかなかったことが起きた。たとえば目標を3年などで刻み、どのくらい計画が浸透したか測るということか。
委員	目標をあらかじめ設定しておくことは必要だと思う。
委員	総合計画について言えば、既に法律での策定義務はなくなり、市の意思で作っているもの。昨今、国は、たとえば、関連計画をつくらないと補助金を出さないなどとしているが、考え方を考える必要がある。委員の皆さんが言うように、今がターニングポイントではないか。
分科会長	目標値の運用の仕方だと思うが、右肩上がりの時代ではないので、守り育て、提言をするという点で、目標をどう設定していくべきか。
委員	国や地方自治体の形も変わっている。
市	現在の総合計画においても、目標値は5年ごとにしか示していないが、毎年、施策評価で、実績の数値をとり、推進をチェックしている。次期計画でも施策評価は行う予定だが、冊子としては、毎年の目標値を全部記載するのは現実には難しい。
分科会長	では、今後、だれが5年後の進捗をチェックし、10年後まで計画の管理をしていくのか。我々今の委員がするのか。どうなるのか。 本日、計画策定までのスケジュールは示されたが、作った後、どうしていくのかについても今後示してほしい。次回に案を提示するなど、全体会でも諮っていただきたい。

4. その他

次回の日程について

5. 閉会